

## 無為自然

このページは、趣味が「山歩き、畑仕事、愛犬と散歩すること」という  
小松学長の日々を紹介したり、メッセージなどを掲載します。



無為自然 Blog

Today

Archives

 archives

2009/03/29



## 慰労会

この3月末をもって学長としての私の任期が終わりますが、本日、加戸愛媛県知事を始めとして愛媛県内外の各界有志の方が慰労会を開催してくれました。



非常に嬉しく思い、出席いたしましたが、私は、その場を借りて新しい柳澤次期学長を始めとする愛媛大学の新役員を地域の皆さまにご紹介させていただきました。

 calendar

&lt; March 2009 &gt;

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

 search


 links

→ [前のページへ](#)

**学長室**

- [学長メッセージ](#)
- [学長プロフィール](#)
- [学長あいさつ集](#)

→ [週刊ガンバルジン](#)

- [キャンパスマップ](#)
- [交通アクセス](#)
- [お問い合わせ](#)
- [愛媛大学Home](#)

→ [RSS](#)

150335 [Mode] Since 2005-10-05



そろそろこのブログも最後になりますので、少し長くなりますが、この6年間で振り返ってみたいと思います。



私が愛媛大学学長に就任した平成15年3月は、国立大学法人化を控えその準備段階にある重要な時期でした。学長就任時に「法人化のために大学改革をするのではなく、大学を活性化して国際的なレベルにまで高めること、そして、地域に貢献すること、国民の期待に応えることが大学改革の目的である。」と愛媛大学の全構成員及び地域社会に公表しました。また、その骨格をなす「愛媛大学憲章」の必要性を訴え、次期学長である柳澤先生を中心にその素案作りに着手。平成17年3月に「愛媛大学の理念と目標及び愛媛大学憲章」を制定し、国内外に「新しい大学の創造」を宣言しました。その際、現在の愛媛大学のキーワードとなる「地域にあって輝く大学」や「学生中心の大学」「地域から世界に発信する大学」を創るという言葉が誕生しました。



愛媛大学憲章の柱は「教育・研究・社会貢献・大学運営」ですが、その基本方針として「学生中心の大学」を掲げています。以来、学生を主人公とする大学を創るための改革を行ってきました。その一つが、自ら学び、考え、実践する能力を習得できる教育体制と環境を整備し、資質のある学生を確保するため、AO入試を重視することでした。愛媛大学には世界に誇る3つの研究センター、「沿岸環境科学研究センター」、「地球深部ダイナミクス研究センター」、「無細胞生命科学工学研究センター」があります。これらのセンターにおける次世代研究者を育成するため、スーパーサイエンス特別コースを開設しました。このコースはAO入試を実施していますが、このコースに対する国内の影響は大きく、全国紙でも度々取り上げられました。すでに、3年間で大学を卒業し大学院で学んでいる学生がいるなど、着実にその成果は形となりつつあります。



実質的な教育改革を実現するため、学内の組織改革にも取り組んできました。平成16年12月には教育・学生支援機構を設置し、機構内に「学生支援センター」を置き、アドミッション・オフィス、修学支援オフィス、学生相談オフィスを開設しました。また、入試改革の第一歩として各学部のアドミッションポリシーを明確にし、加えて各学部に教育コーディネーターを配置することにより、入学後の学生の教育についても手厚くフォローする体制を整備しました。さらに、学士課程修了時に学生が身につけるべき知識や技能であるディプロマ・ポリシーを明確にしました。このような教育改革は、文部科学省の「国公立大学を通じた大学教育改革の支援プログラム」等に特色ある取組として多く採択されています。



「研究」については、「地域・環境・生命」を主題とする学術研究を重点的に推進してきました。学長就任の年に設置した「無細胞生命科学工学研究センター」は、センター長である遠藤教授が世界に先駆けて開発した無細胞タンパク質合成技術をベースとしたものですが、その合成技術はマラリアワクチンの開発などに応用できるため、世界から注目されるセンターとなっています。また、「沿岸環境科学研究センター」「地球深部ダイナミクス研究センター」は、「グローバルCOEプログラム」の研究拠点として認められるなど、法人化以前から一貫して進めてきた、学部の枠を取り払い、人材を各研究センターに集中させる施策が実ったものです。



私が特に力を入れてきたことが「社会貢献、地域貢献」です。地域にある愛媛大学として地域社会との連携を重視し、「『地域にあって輝く大学』を創る」をスローガンに、法人化のメリットを生かした取組を進めてきました。愛媛県との連携協定を皮切りに、県内の各市や各企業との連携協定を結びました。また、地域が何を求めているのかを知ること、愛媛大学を地域の皆さまに知っていただくことが重要であると、大学の情報を発信してきました。私はリーダー自らが広告塔になることが必要であるとの信念から、招かれる講演会へは可能な限り出席すること、マスコミのインタビューには必ず答えること、これを学長在任中の6年間実践してきました。その集大成が、平成20年8月に開催した「あいだい博2008」です。今では愛媛大学の記事が新聞に掲載さ



れない日はないとまで言われ、地域の行政や経済界、産業界だけでなく、地域住民の皆さまからも愛媛大学の敷居が低くなったと評価されているところです。

また、平成20年に愛南町に設置した南予水産研究センターは、南予活性化はもちろん、愛媛県、ひいては日本の農林水産業活性化に寄与するものとして期待されています。さらには観光コースや愛媛の地場産業である造船業や紙産業、ICTなどの次代を担う人材育成のための特別コースが設置されます。



国際貢献については、単に国立大学の使命ということではなく、この愛媛の発展にもつながると考え、地域の皆さまのご支援、ご理解を得て、愛媛県内にネパール友好協会、インドネシア友好協会を立ち上げることができました。また、愛媛大学ができる国際貢献の重点は、主に東南・南アジア、特にネパール及びインドネシアとアフリカのモザンビークであると明確に方針を定めました。すでにネパール政府からは、防災活動支援などの貢献活動が認められ、愛媛大学に対し感謝状が贈られています。愛媛大学の国際貢献は、この3国を中心として取り組んでいくこととなります。



学長在任中、毎年中期目標計画達成のために愛媛大学がやるべきことを重点課題として公表するとともに、地域に対してもマスコミなどを通して、愛媛大学が目指すものを明確にしてきました。何よりも自主的・自律的な運営を通



して、地域に貢献できる大学、地域で活躍する人材を育成する大学という、本来の国立大学の設置の理念を忘れてはならないと考えています。



本日、地域の皆さまと一緒にこのような席を持つことができたということが、私の最大の喜びです。これからも、愛媛大学が「地域にあって輝く大学」「学生中心の大学」「地域から世界に発信する大学」を創造するという施策を発展させていって欲しいと願っています。

最後になりますが、本日お集まりいただいた皆さまはもちろん、これまでご支援いただいた皆さまに心から感謝いたしますとともに、今後も愛媛大学に対するご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

BlogOwner 無為自然



2009/03/18

### プロテオ医学研究センター設置の記者発表

本学に6つ目の先端研究センターとなるプロテオ医学研究センターを設置することになり、記者発表を行いました。医学部を中心に準備を進め、無細胞生命科学工学研究センターが加わって、今年4月の設立を迎えることになりました。



本センターは、ゲノムタンパク質科学を医学・医療に展開するプロテオ医学に関する研究及び教育を行い、生命科学の発展と地域の医療・福祉に貢献するとともに、有能な若手研究者の育成を推進することにより、アジアにおける生命科学研究の拠点形成を目指しています。





医学分野に限らずバイオテクノロジー関連研究は、世界中で華やかに展開されていますが、遠藤先生が開発した無細胞生命タンパク質合成技術を活用することで、本学でなければできない研究が進められると確信しています。



このセンターを世界に誇るものにし、本学の学術面の発展のみならず、人材育成面からも、優秀な研究者や学生が集まってくる拠点にしたいと考えています。

BlogOwner 無為自然

2009/03/18

### 平成20年度愛媛大学大学院連合農学研究科学位授与式

博士の学位を授与された39名の修了生にお祝いを申し上げます。皆さんの努力と成果を心から称えるとともに、指導していただいた先生方、研究生活を支えていただいたご家族、ご関係の皆さまに、心から敬意を表したいと思います。





現在、世界的な経済危機が進行し、世界経済は極めて不安定で、先行き不透明な状況に陥っております。それとともに、資源問題、環境汚染、自然災害、食糧問題等の人類的課題が重くのしかかってきています。



皆さんのような若い世代の優れた技術者・研究者が、今日の人類的課題に対し、この連合大学院で培った研究能力や人的関係を一層発展させ、新たな問題解決の方向、それに導く新たな領域を開拓し、それぞれの国で、国づくり人づくりのために活躍してくれることを期待しています。





BlogOwner 無為自然

2009/03/18

### 学生代表者会議との懇談

4月から新しく学長になる柳澤理事とともに、学部やサークルの代表者との意見交換を行いました。



学生代表側から、駐輪場、サークルボックス、障害者用設備等に対する改修・増設及び成績評価方法の改善、意見を述べる場についての要望のほか、これまでに学生達の意見を聞いて実施してきたことに対する感謝がありました。





私達からは、対処が簡単なものは直ぐに実現できるが、施設・設備の改修などは、大学全体の大きな計画の中で決定されていて、優先順位もあり待ってもらふ必要があることやすべてを実現できるものではないことを説明しました。また、学生達の意見を聞いた上で実施したことについての改善要望もあることから、意見の収集に当たって、なるべく多くの意見を取り入れる工夫をお願いしました。



こういう懇談は、学生達の意見を直接聞ける良い機会と考えています。WEB上に設けている「学長へのご意見箱」への意見などと合わせ、今後も大学運営に活用していただきたいと思います。

BlogOwner 無為自然



2009/03/14

### 講義は楽しい

「研究・教育・管理運営—私の40年の大学生活サイクル」と題して、理学部講義棟で最後の講義をしました。この機会を与えてくださった全ての方に心からお礼を申し上げます。

最後の講義ということで、卒業生や懐かしい研究仲間が集まってくれました。私は、自分だけで事を成そうとしても限りがあり、後継者を育てないとダメだという認識を得てから、学生の育成に力を入れてきたので、多くの弟子ができたことが誇りです。送り出した卒業生が多面で活躍してくれていることを嬉しく思っています。



今日の講義は、懐かしい顔ぶれを前に、意に沿わぬ形で出会いながら地質学にのめり込み、先生の言うことは聞かないけれど人一倍勉強した学生時代や、精力的に取り組んだフィールドワーク(日高、飛騨、領家～海外)についての思い出話を中心にしました。

長い間管理職をしているので、学会誌等あまり読めておらず、最新情報の提供とはなりません。やはり「講義は楽しい」ということを再認識させていただきました。



講義に引き続いて慰労会を開いてくれましたが、気の置けない仲間達と楽しい時間を過ごし、いささか飲み過ぎてしまいました。

BlogOwner 無為自然

2009/03/10

### イハラサイエンス(株)寄附講座の記者会見

イハラサイエンス(株)の寄附により、新加工技術の創成サイエンス講座を開設することになり、記者発表を行いました。船舶工学寄附講座に続いて、工学部に2つ目の寄附講座が誕生することになります。



イハラサイエンス(株)は大企業というわけではありませんが、配管継ぎ手メーカーとして優れた技術力、ノウハウを持った存在感のある企業であり、中野社長は、現在の経済状況の中にあっても、「リストラはしない。人ひとり採用することは、その人の面倒を一生見ると決意すること」という信念を持って経営に取り組まれるとともに、今は試練の時ではあるが経営を変革するチャンスと考えておられます。



寄附講座では、イハラサイエンス(株)が蓄積してきた専門的かつ先進的知識・ノウハウと、本学の工学基礎理論に基づく科学的アプローチ手法と製造基盤技術(軸肥大加工法)とを持ち寄り、流体輸送用継ぎ手部品・配管システムの画期的な技術革新に連携して取り組みます。



同時に、中野社長の信念や会社の経営理念等から、教育や人材育成の面で、今までと違う成果が得られると期待しています。

BlogOwner 無為自然



2009/03/05

### 五校園マイスター倶楽部1周年記念懇親会

五校園マイスター倶楽部発足一周年おめでとうございます。日頃の附属学校へのご支援に心から感謝いたします。



私は、子どもたちの自主的な学びを重視しており、目的意識をしっかり持った人間に成長して欲しいと願っています。また、地域が発展するためには、大企業、中央指向の強い現状を改め、地域の役に立ちたい、地域で頑張る、そういう志を持つ子どもたちを育てていかなければならないと考えています。



そのため、大学附属の利点を活かし、幼稚園から大学まで一貫した体制を作り、大学が中心となって教育を再生し、保護者の皆さんや地域社会と一緒に子どもたちの育成に取り組みたいと思っています。



五校園マイスター倶楽部が、今後ますます活躍されることを期待しています。

BlogOwner 無為自然



2009/03/05

### 愛媛新聞の取材

愛媛新聞の取材を受けました。  
今回の取材は、主に学長の6年間の振り返る内容となりましたが、取材を受けてみて改めて様々なことを思い出しました。



私が学長に選ばれたときは、国立大学の法人化が既定路線となっていて、否応なく法人化の準備に取り組まざるを得ませんでした。法人化は類例のない大改革でしたから、全てが手探りで進むしかない状況でした。その間、人と言えない苦労も味わいましたが、めげないで学生、大学、地域のために走り続けることができたと思っています。

今後も、本学がこの流れを止めることなく進み続けることを願うとともに、できることがあれば、是非お手伝いさせていただきたいと考えています。  
話した内容については、新聞記事を楽しみにして下さい。

BlogOwner 無為自然